エルム第39号
発　行/特定医療法人
北楡会 札幌北楡病院
編　集/広報委員会
責任者/玉　置　　透
発行日/平成21年9月20日

療養情報センターが改編され「医療連携室」に名称変更しました。

医療連携室の仕事は

・入院についての不安や相談
・医療費や生活費の心配
・健康保険や年金など
・身体障害手帳や福祉制度
・退院後の生活への不安や介護保険の利用
・家族、職場に対する心配
・骨髄（造血細胞）や腎臓移植について相談したいとき

その他、誰に相談して良いかわからないときに声をかけていただくことです。

皆様の不安を伺い解決策を一緒に考えます。料金などはかかりません。

場所は、東棟2階にあります。直接お越しになるか、入院中にご利用したい場合は病棟スタッフにご相談ください。

医療連携室の職員は

○　医療ソーシャルワーカー（MSW）
○　移植コーディネーター（CTC）
○　入退院調整係

などで構成されています。

免疫細胞療法センターの特集

開設されて一年が経ちました。問い合わせいただく件数も増え治療される患者さんも北海道全域にわたっています。

今回のエルムは免疫細胞療法センターを紹介する特集号といたしました。

インフルエンザの予防接種

今年は毎年冬に流行する季節性のインフルエンザに加えて、新型のインフルエンザが心配されています。

同じ「インフルエンザ」という名前でも季節性と新型では発生原因となるウイルスが異なります。したがって予防のためのワクチンも異なるのです。

（9月10日現在で）いつから予防接種ができるのか、いつ頃から接種すればよいのかご案内できない状態です。

わかり次第、病院ホームページでご案内、ご紹介するように致します。

http://www.hokuyu-aoth.org

札幌北楡病院基本方針

1：患者さんに公正な医療を提供します。
2：患者さんの権利を尊重し、分かりやすい医療を行います。
3：患者さんの安全を保障し、快適で安心して治療に専念できる場を提供します。
4：高度医療を積極的に推し進めます

病院紹介シリーズ第35回

免疫細胞療法センター

はじめに

免疫とは疫（病気）をまぬが（免）れるという意味です。インフルエンザが流行する時期や、子供の頃にはしかや天然痘などのワクチンを接種して病気にかからないように備えます。

これは、私たちの身体が、伝染病などに一度かかると、自分の体がその排除方法を覚えて二度とその病気にはかからなくなるということを利用しています。

こういう体が持っている力を免疫といいます。免疫力の低下とは、人間に生来備わっている自然治癒能力の一つである病気や癌などに対する抵抗力が低下している状態です。

免疫療法とは

癌（がん）に対する治療法の一つとして免疫力を高めてがん細胞を減らす免疫療法があります。

免疫力を高めるためにはいくつかの方法があります。ヒトの体の中にはがん細胞を攻撃してくれる兵隊としてナチュラルキラー（NK）細胞やT細胞、マクロファージ、樹状細胞などがあります。がんの時にはそれらの兵隊の数が減ったり、働きが弱くなって敵（がん）に占拠されている状態になります。

敵（がん）の量を減らすことが大切です。抗がん剤や手術療法、放射線療法などでがんの量を0にできればよいのですが，がんが体に残っているときにこれらの兵隊（細胞）を訓練して最強の部隊を作り敵を攻撃する試みの一つが免疫細胞療法です。

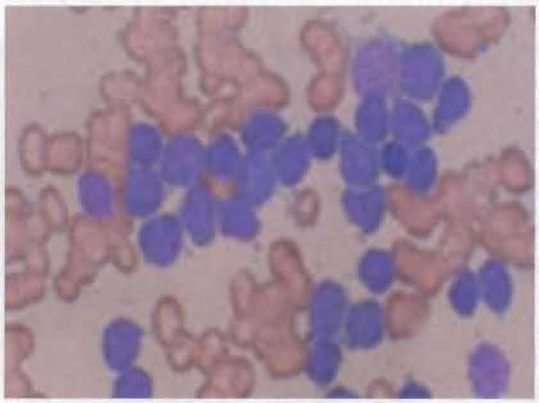
簡単な歴史

免疫力を上げる試みはここ何十年にもわたって行われてきました。TVにもさまざまな宣伝が行われたキノコやサルノコシカケなどの植物の抽出物が良いと言われた時もありました。宣伝の量に応じて売れているようです。

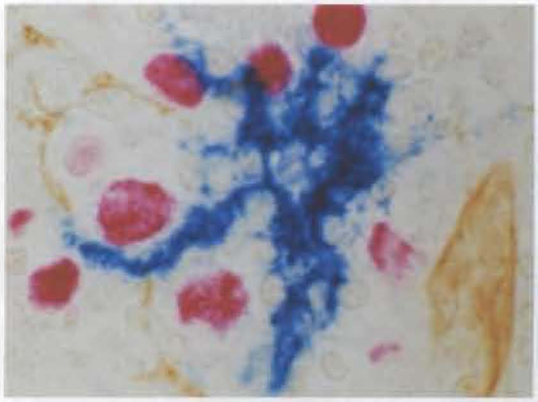
大半は保険は効かず自費で薬局で購入するか通信販売で扱われています。一部の免疫賦活剤は病気の種類などにより使用できる薬物もあります。また日常生活で明るく笑って過ごしたり、山登りなど自然と一体になることによる精神、心理療法などでナチュラルキラー細胞が活性化して癌をやつける力が高まるというデータもあります。

また玉川温泉で代表される温泉療法や温熱療法なども試みられています。

札幌北楡病院でも患者さんにアンケートを取り実際にどのくらいの患者さんがどのような免疫療法を試みているのかを調査したこと



白血病のがん細胞



樹状細胞
（青い部分が根のように伸びている）

もありました。その調査の結果は約40%の方々が宣伝量に応じて患者さんが何らかの薬物や食品などを購入しているという事実でした。また丸山ワクチンも1970年代に一世を風靡しました。動物実験でがんに効くという十分な効果が丸山ワクチンでは見られず保険承認にはなりませんでしたが、一部の人には効果が得られていたという報告もあります。

このような免疫効果が十分得られるか否か効果判定するのには一定のルールがあります。免疫療法といっても単にリンパ球療法といって他人のリンパ球を輸血する方法から様々な薬物や抗原で免疫にかかわる細胞（兵隊）を刺激して患者さんに戻す療法などがあります。

新しい方法

最近は医学の進歩によりがんを攻撃する機序がかなり明らかになってきました。

その機序を利用した治療方法として最近注目を集めているのが、患者さん本人の末梢血より細胞を分離して活性化させそれを身体に戻し敵（がん）を攻撃する樹状細胞療法です。

樹状細胞を顕微鏡でみると樹木の根のように足をたくさんのばしているので樹状細胞と呼ばれています。

この樹状細胞を用い細胞を分離して活性化させる方法が確立され癌治療がおこなえるようになりました。

またワクチン療法と言って体の中にある癌をやつける細胞（兵隊）に役割を命令する治療法もおこなえます。

ワクチンと樹状細胞などの免疫力のついた細胞を組み合わせての治療も行えるようになっています。

これらの方法は今までの免疫療法の集大成としてとても脚光を浴びているのです。

札幌北楡病院でもこれらの免疫療法を行える体制が昨年11月に出来、実際に治療を開始しました。

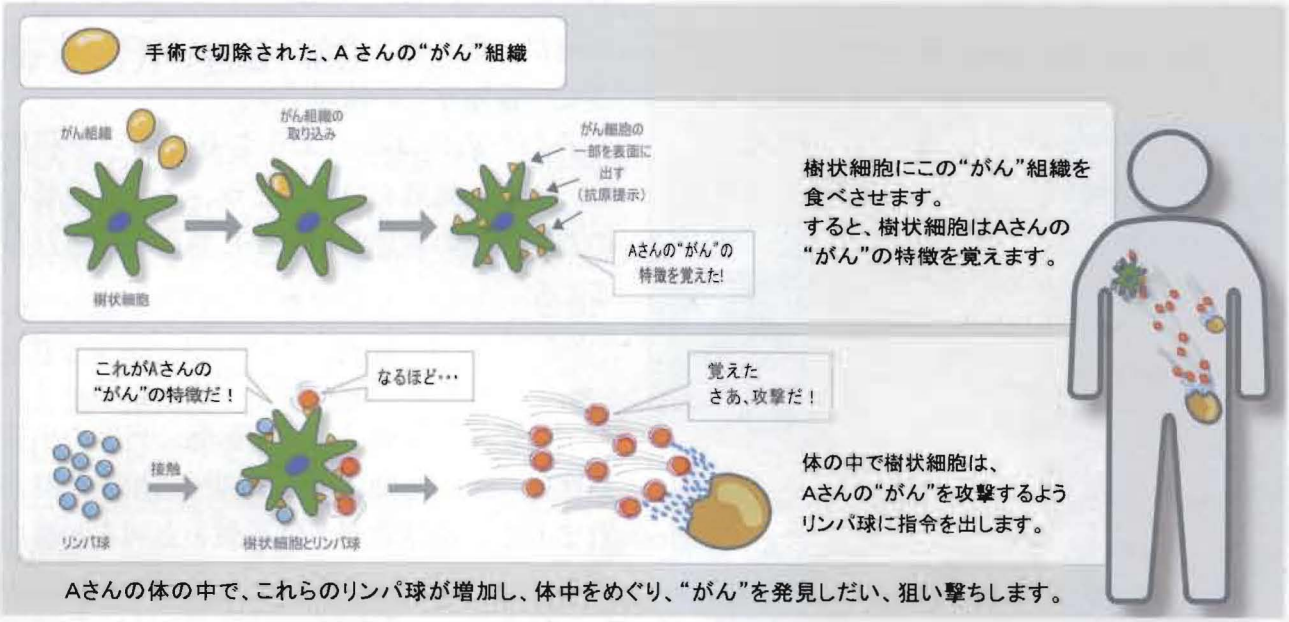
全国でも国立がんセンター、信州大学、大阪大学、愛媛大学などでも北楡病院と同じような方法で治療が始まっています。

おわりに

しかし、これらの診療は保険診療がきかず予約制で高額であり自費診療となるのが難点です。

また、がんの種類や病気の進行程度により免疫療法の適応が決まりますのですべての癌が対象となるわけではありません。

詳細はホームページにもご案内しています。ぜひご覧ください。　**病院長　笠井　正晴**



医療連携室ニュース

現在、免疫細胞療法センターの問い合わせ相談窓口は医療連携室の職員が兼務しています。今回は医療ソーシャルワーカー兼免疫細胞療法コーディネーター根川より7月11日に行われた医療セミナー「最前線のがん免疫療法」についてご報告いたします。

当院では新しいがんの治療方法として「がん免疫療法」が始めました。

このたび患者さんやそのご家族向けてセミナーを開催いたしました。

事前に申し込みいただいた方だけでなく当日参加の方も多数ご来場いただき、定員を大幅に超えての開催となりました。

また、参加された方は札幌市内だけでなく、旭川、室蘭、苫小牧、函館からもお越しいただき関心の深さがうかがえました。

当院で行っているがん免疫療法は「樹状細胞療法」というものです。

はじめに、武蔵野大学客員教授の岡本正人医師からこの治療方法の原理や樹状細胞療法と放射線や化学療法との併用による治療効果などをいくつかの症例を紹介いたしました。

つづいて当院の免疫細胞療法センター長、小笠原正浩医師より、樹状細胞療法の治療のしくみやこれまで約半年間当院で行った症例や治療実績などを紹介いたしました。

【当院の実績】

すい臓がんや、大腸がん、肺がん、卵巣がん、肝臓がん、悪性リンパ腫など様々ながんの患者さんの治療を行ってきました。

今では一か月の樹状細胞培養件数も12件と増加してきました。治療効果についても、縮小や進行停止が認められた症例が、約半数だったと報告がありました。

また、北海道大学遺伝子病制御研究所教授西村孝司医師が北海道大学病院での免疫療法の紹介としてとして「ヘルパーT細胞を軸とする臨床研究」と題し講演がありました。

まず、日常生活になじみやすい形で免疫のしくみをご紹介しました。

つぎに免疫細胞の一つである「キラーT細胞」が、がん細胞を攻撃しやすくする環境を作る研究です。

「キラーT細胞」を助ける「ヘルパーT細胞」を活性化してあげれば「キラーT細胞」も活性化します。

臨床研究ではこの考えに基づいて「ヘルパーT細胞」を活性化させるペプチドを使いがん治療へ応用していく試みです。

講演終了後の質疑応答では、参加者からたくさんの質問がありました。

免疫療法と一口に言っても様々な治療方法が混在しているのが現状です。

何が一番有効なのか、これは患者さんにとって一番知りたい情報です。

そのためにはこのようなセミナーを利用し、正しい知識を持つことが、とても重要なのだと多くの参加者の方から感想をいただきました。

セミナーの最後は、岡本医師、当院の小笠原医師、太田医師による個別医療相談が開かれました。相談希望者は予想を上回る20組もありました。

相談希望が多かったため、一組あたり10分弱の相談時間でしたが、現在の治療状況や今後の治療方針への質問、不安、主治医への相談の方法などを相談される方が多かったようです。

セミナーの後には、多くの方からアンケート調査に協力を頂きました。

帰り際にいただいたお言葉や、アンケートから、

「詳しい話がきけてよかった」

「帰って、患者本人ともよく相談してみます」

などの感想がありました。

まだ新しい分野の治療方法ですので、実施医療機関も少なく、情報も少ないと思われます。

次回開催は未定ですが、またの機会にふるってご参加下さい。

当院の免疫療法についての問合せや医療相談は専用フリーダイヤル（0120－755－706）を設けています。

どうぞご利用下さい。

医療ソーシャルワーカー
免疫細胞療法コーディネーター
根川

新人紹介　村瀬　由佳

4月から医療連携室で入退院係として働かせて頂いております、村瀬由佳です。

医療機関で働くことが初めての私にとっては、正直まだ分からないことが多く、勉強の毎日です。

入退院係は決して表に出て患者さんと接する仕事ではありませんが、入退院を円滑に行うことで、患者さんや職員の方々の力に少しでもなれたらと考えております。これからも一層、皆さまの笑顔につながるようなスムーズな入退院調整を行えるよう努力して参ります。

ご迷惑をお掛けすることもあると思いますが、今後共どうぞ宜しくお願い致します。

外来診察担当一覧

	月		火		水		木		金		土
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前
内科 血液内科	小笠原 太田 木山 今井	小林(直) 中田 藤井	笠井 今井 平野 野口	中田 嶋	小林(直) 小笠原 藤井	今井 桂	笠井 小林(直) 中田 小杉	平野 松川	平野 今井 木山 松岡	太田 野口 金谷	松野 交代医師
消化器内科	工藤	川村	出張医	工藤 高野	工藤 長佐古	川村	工藤	工藤	川村	高野	
免疫細胞療法科 (完全予約制)		今井		小笠原		太田		小笠原 今井		小笠原	
腎臓内科 代謝糖尿病					澤村		澤村		澤村		
循環器内科			山崎		横山		儀間				
外科	玉置 坂田	目黒	米川	久木田	目黒 堀江	水戸 飯田/土橋	玉置 小野寺	津田	久木田 堀江	玉置	水戸 交代医師
整形外科	東 高橋		東		高橋		東		高橋		
小児科	小林(邦) 安田		小林(邦) 小林(良)	小林(邦) 鈴木	小林(邦) 安田		小林(良) (血液外来)		安田		交代医師
スリープ外来	—		中尾	—	—		中尾	—	—		—
ペインクリニック (完全予約制)	—		—		沼澤	—	—		—		—
歯科	福島		福島		福島	—	福島		福島		福島

〈外来予約　電話受付〉平日のみ　午前　9時00分～12時00分
午後　13時30分～16時00分

外来予約・変更専用電話　TEL 011-865-0201

※予約の際に受診科、氏名、生年月日をお知らせください。
※日曜日、祝日は診療をしていません。
※土曜日は予約診療を行っていません。
※予約がなくても診察を受けることができます。
※ 診療の際に、前後の患者さんの状態で、多少時刻が変わることがあります。

Q　**以前、御意見箱に投書いたしました。問題の解決まで少々時間がかかったようです。投書はどのような流れで誰まで見ているのでしょうか。**

A　全て院長が見ています。院長の判断で問題解決に一番近い部署に連絡がいき、対処しています。ただ、多部署にまたがる問題や、関係法規の都合で病院内だけでは判断できないものもあり、お時間をいただいている事案もあります。

休憩室

私は今、中国から国境の峠を越えパキスタンのフンザにいる。ここは高地で空気が薄い。神々しい山々が眼前に迫る。強い日差しと澄んだ空の色は青を通り過ぎ紫に見えた。　ロッジのテラスのデッキチェアに腰を掛けて美しい景色に包まれていると距離感を失っていくような気がした。

働き始めた若い頃、オカリナの音色で始まるテレビの紀行番組は残業続きの毎日を癒してくれた。その頃はまだ経済的にも精神的にも海外旅行など遠い世界の話だった。

家庭にも仕事にもやっとゆとりができ始めた10年ほど前から再びオカリナの旋律が心の奥底より響くようになった。

定年を迎えた。数日後、大きなスーツケースをかついで札幌の自宅を出た。

成田から上海に飛んだ。そして沿海のまちを廻りなが数週間かけて北京に行った。

待ち望んだ旅行なのに上海の摩天楼や北京の天安門広場では何も感動を感じなかった。

夜行列車で西安に向かった。特別急行列車の軟臥（A寝台車）の切符を取れず、初めて快速列車の硬座（普通座席）の席に座った。中国の人と初めて普通の話をした。

朝もやの中、西安の街に着いた。歴史を感じさせる街並みは、私は異国にいるのだと心から実感させてくれた。

兵馬俑、大雁塔、鼓楼、華山、大唐芙蓉園。ガイドブックでは得られない感動を受ける。

それまではホテルに泊まっていたのに、西安では初めてドミトリー形式の安宿に泊まった。さまざまな国の人と話した。夜は労働者の酒場で一緒に酒を飲んだ。

街の路地にも入って行った。荷物は本当に必要なものを残し全て捨ててしまった。
もう小さなリュックだけになった。

ここから青蔵鉄道で南へチベットのラサを目指すべきか、いやいや西へ向かおうか。行く先々の宿で地図を眺めては、気の向くまま旅を続けた。

トルファンから南疆線をタクラマカン砂漠へ、カシュガルからパキスタン行きのバスに乗る。もう乗客はウイグル人だけになっていた。そして高山病に苦しみながらも昨日フンザの街に着いたのだ。

風が気持ち良い。うとうとと寝てしまう。

その時遠くで私を呼ぶ声がした。

「○○さん、○○さん」その声はだんだん近くなり私の耳元で囁くようになった。やさしい声だ。

「○○さん、おはようございます。何の夢を見ていたのですか。少し笑っていましたよ。検温の時間です。」看護師さん…

枕元に昨日寝るときに読んでいた旅行記。

そうだ、私は入院していたのだ。

二年ほど前に定年を迎えた。何をしたら良いのか、急に出来た自由な時間を持て余しているときに体調を崩した。近くの病院に行くとすぐに入院となった。

血液の病気ということだった。医師の説明に病気の内容は理解できなくても治療が長期になりそうだということは理解できた。

ベットの上では本を読むことしかできない。時間は沢山あったはずなのに、病気に時間を縛られると急に何かをしたくなる。

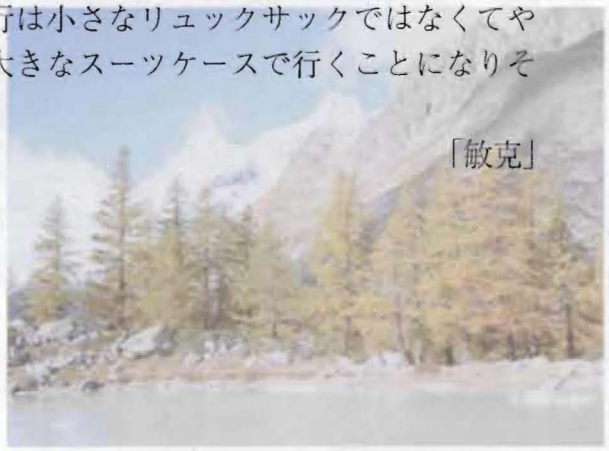
そして、病気を克服して若いころに抱いた夢を実現したいと思うようになった。何度かの入退院を経て今日は最後の退院の日となる。

いつもどおり妻がやってきた。バックの中から私が読んでいた旅行のガイドブックを取り出した。

そして「私も一緒に行ってあげるとするかな」と言って笑った。

旅行は小さなリュックサックではなくてやはり大きなスーツケースで行くことになりそうだ。

「敏克」



小児科（第三病棟）では毎月のお楽しみ会や
季節のイベントを行っています。
写真は8月に行われた夏祭りの様子です。

おことわり：個人情報保護のため画像の一部を加工しております

当院では診療情報の開示、提供を行っています。ご希望の方、開示の方法など職員までお尋ね下さい。

編集後記：8月の初めころに「あ、やっと夏が来たな…」と思ったらその翌日に秋が来ました。

今年は秋が長いです。先日道北に出かけたとき車窓から見えた大雪の山々の頂上は少し白くなっていました。ゆっくりですが着実に冬がやってきます。そして、必ず春がやってきます。　　濱田

特定医療法人北楡会　**札幌北楡病院**

診療科目：外科・内科・血液内科・消化器内科・小児科
循環器内科・整形外科・ペインクリニック
放射線科・歯科
住　　所：札幌市白石区東札幌６条６丁目５番１号
TEL：011(865)0111・FAX：011(865)9634
交　　通：地下鉄白石駅５番出口から環状通り
北の方へ徒歩５分左手
ホームページ：
パソコン　http://www.hokuyu-aoth.org
NTTドコモ　http://www.hokuyu-aoth.org/i
ａｕ　http://www.hokuyu-aoth.org/ez
ソフトバンク　http://www.hokuyu-aoth.org/v